

「税に関する高校生の作文」優秀作品

『十日町市租税教育推進協議会 十日町市長賞』

税金の良いところ良くないところ

新潟県立 十日町総合高等学校 3年

栗田心晴

税金とは、たくさんの公共サービス、公共施設をつくるために、国民で出し合って負担するお金のことです。そんな税金の、良い点と良くない点について話します。

まず良い点についてです。税金には所得税というものがありますが、これは働いている年代の人が払う税金であり、そうすると高齢者は所得税を払わないということになります。しかし、年代問わず消費者が払う消費税では高齢者も対象となるため、高齢者が払う税金が増える分、働いている年代の負担が減るから良い点であると言えます。

逆に良くない点は、それ本当に必要ある？と思うような税金が存在することです。

例えば、車の走行距離に応じて税額が決定される税金、その名も走行距離税です。

走行距離税にメリットなど一つもなく、デメリットしかありません。

公共交通手段の整備が行き届いていない田舎の方が、自動車を利用することが多いです。そうすると、走行距離税が原因で、都会へ移住することの需要が高まる可能性があり、田舎の人口減少にも繋がります。

さらに、農産物は田舎を拠点として行われています。しかし、田舎から人が居なくなると、現在日本全体で起こっている「農家の若い世代が少ない」という問題が激化します。

また、都会は家賃や物価が高く、田舎と比較して一人っ子の割合が高い傾向にあるため、都会人口が増えると、日本全体の出生率が下がり、少子高齢化が進みます。

少子高齢化が進むことで、しだいに若年層が減り、少ない若者が大勢の老人を養うためにさらに税金が増え、若者の負担が増えます。

走行距離税は、負の連鎖を引き起こす原因と言っても過言ではないため、日本には必要がありません。

このように、税金には良い点、良くない点がありますが、個人的には良くない点の方が圧倒的に多いと感じます。

特に走行距離税なんかは、まだ話し合いの段階のようですが、今すぐにでもやめた方が未来の日本のためでもあるでしょう。